

<事業名> インターアクト米 稲作

団体名	兵庫県立豊岡総合高等学校 インターアクトクラブ
所在地	兵庫県豊岡市
代表者名	岩本 敏浩

事業内容	豊岡総合高校インターアクトクラブが地域の諸団体と連携し、5月～9月の間に昔ながらの農業で稲作をします。素足で圃場に入り、手植えの田植えをします。無農薬のため除草、害虫駆除、酸素・栄養補給などのためのアイガモ農法のアイガモを放鳥します。無農薬圃場の生物調査や環境整備をします。稲は手鎌で刈り取り、稲木に天日干しをします。収穫されたお米は、災害被災地の東北、熊本、岡山や地域の特別支援学校に贈ります。
地域	豊岡市下宮 インターアクト米圃場
事業の効果	<p>①団体（組織）内の効果</p> <p>昔ながらの農業の稲作を通じて、小学生、中高校生から大人までの異世代の交流が活発となり、参加者が活性化しました。また、日本人と外国籍や外国人との異文化交流ができました。泥まみれ、汗まみれとなり用水路で足を洗い、笑顔に満ちた活動となることができました。</p> <p>コロナ禍においては緊急事態宣言などあったものの、田植え、アイガモ放鳥は豊岡ロータリークラブ、豊岡ローターアクトクラブ、にはんご豊岡あいうえおなどの団体が中心となり行うことができました。（新聞記事参照）</p> <p>アイガモの放鳥や生物・環境調査により、無農薬稲作の意義を感じ、普及活動の一助となることができました。</p> <p>稲刈りはインターアクトクラブの高校生も参加することができ、手鎌での稲刈りや稲木の天日干しなど昔ながらの魅力的な農業が実践もできたうえに、団体の枠を超えた交流もできました。</p> <p>反省会ではインターアクト米などを共に食することで共有することができました。コロナ禍においての会合なので他校との接触はできませんでしたが、同じ時間と場所が共有できて有意義でした。</p> <p>②地域への効果</p> <p>参加者で作ったお米は、無農薬、天日干しの非常においしいお米です。栄養価も高く、評判も良いです。東北、熊本、岡山などの被災地の人たちや地域の特別支援学校の児童・生徒、デイサービスの利用者たちにとっても有益なお米となりました。</p> <p>気仙沼の高等学校では調理実習、石巻市の神社では新嘗祭に使っていただきました。</p>
事業経過	<p>2020/5/1</p> <ul style="list-style-type: none">・打合せ・物品(田植え等作業用)購入 <p>2020/5/23 田植え</p> <p>・豊岡ロータリークラブ、豊岡ローターアクトクラブ、にはんご豊岡あいうえお、豊岡総合高校インターアクトクラブ(顧問)、池上農園12名参加。</p> <p>コロナ禍において小中高校生の課外での活動や他社との交流の制限があるため参加ができませんでした。しかしながら晴天の下、こうのとりが空を舞うなか、無事田植えができました。素足で1.4畝の田んぼに入り、一つひとつ苗を手で植える姿は非常に楽しそうであり、笑顔で活動をした。参加者はこの苗が大きくなり、稲となり、お米となった後、被災者などが美味しく食べる姿を思い浮かべました。</p>

	<p>2020/6/7 アイガモ 放鳥</p> <p>2020/7/27 生物調査</p> <p>2020/7/31 生物調査</p> <p>2020/9/13 稲刈り</p> <p>2020/11/3 反省会・ 米発送準備</p> <p>2020/11/4 米発送</p> <p>2020/12/25 ひょうごユース eco フォーラム 動画 公開</p>	<p>・豊岡ロータリークラブ、豊岡ローターアクトクラブ、にはんご豊岡あいうえお、豊岡総合高校インターアクトクラブ(顧問)、池上農園15名参加。 コロナ禍において小中高校生の課外での活動や他社との交流の制限があるため参加ができませんでした。参加者は元気なアイガモと戯れながら圃場に放鳥をしました。無農薬のため除草、害虫駆除、酸素・栄養補給などのためのアイガモ農法のアイガモを放鳥しました。ちなみに豊岡市内のアイガモ農法は3件となっていて、アイガモ米は豊岡市内でも希少価値です。</p> <p>・豊岡総合高校インターアクトクラブ16名参加。インターアクト米圃場の一区画にバリケードを張り、水中生物の避難所を作成しました。避難所内、避難所外、用水路に網をかけ、水中生物を確保した。コウノリ市民研究所の指導の下どのような生物がいるか確認をしました。農薬を使うと生息しない生物を多く発見することができ、無農薬圃場の稲作の有効性が確認できました。</p> <p>・豊岡総合高校インターアクトクラブ16名参加。コウノリ郷公園のビオトープで水中生物観察をしました。山裾で天然の水中生物を確認し、圃場との生物の比較をしました。双方とも無農薬の環境のであり、同一生物の確認ができました。</p> <p>・豊岡ロータリークラブ、豊岡ローターアクトクラブ、にはんご豊岡あいうえお、豊岡総合高校インターアクトクラブ(顧問)など75名参加。 手鎌で稲刈りをしました。鎌を初めて使う生徒も多くいて、不慣れながらも稲刈りをしました。藁で括り、稲木に天日干しをしました。昔ながらの農業の稲作を通じて、小学生、中高生から大人までの異世代の交流が活発となり、参加者が活性化しました。また日本人と外国籍や外国人との異文化交流ができました。笑顔に満ちた稲刈りとなりました。</p> <p>・豊岡ロータリークラブ、豊岡ローターアクトクラブ、にはんご豊岡あいうえお、豊岡総合高校インターアクトクラブ(顧問)など53名参加。 コロナ禍において三密を避け、「新しい生活様式」の実践例に従い、放鳥したアイガモのスキヤキ、インターアクト米のごはんなど地産地消をコンセプトで食べながら、反省会をし、交流を図った。</p> <p>・災害被災地に東北(高等学校、神社、水産会社、観光協会など)、熊本・岡山の仮設住宅に郵便局より発送をした。また、デイサービスや特別支援学校には生徒が持参し、贈呈をして、交流を図った。</p> <p>・兵庫県では、この若者世代を中心に、NPO 法人や企業など、幅広い環境の担い手達による活動の様子を紹介し、活動の活性化を通じて様々な環境保全・創造活動の担い手を育成するため、「第2回ひょうごユース eco フォーラム」を開催しました。今年は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、参加者のみなさんが一堂に会し、意見交換を行なうことは叶いませんでしたが、8名の学生企画委員による力強いオープニングメッセージや、36団体による活動紹介などがありました。豊岡総合高校インターアクトクラブも活動報告を動画で紹介しました。</p>
<p>協働の相手方</p>	<p>・豊岡ロータリークラブ 会長：田中洋(2019/7～2020/6)、野澤勝憲(2020/7/～2021/6)</p> <p>・豊岡ローターアクトクラブ 会長：上野愛子(2019/7～2020/6)、山本(2020/7/～2021/6)</p> <p>・NPO法人にはんご豊岡あいうえお 理事長：植村健二</p>	

〈事業を実施する上での課題〉

①団体(組織)の課題

豊岡ロータリークラブ、豊岡ローターアクトクラブは年度開始が6月、終了が7月なので、行政の会計年度が合致しないため、会長、理事会など2期に渡るため組織メンバーの変更があり、連絡など困難なことがありました。

協働の相手方以外で新たな団体についてどのように報告していくか、また継続性の必要性を考えるかを模索しています。

今年にはコロナ禍での活動であったため、時期により活動が制約させられました。田植えとアイガモ放鳥は、兵庫県・豊岡市教育委員会より校外での活動が禁止であったため、児童・生徒の参加ができなかった。しかしながら協働団体の方々の積極的な参加があり、有意義となりました。説明会や報告会も開催されないのも些か消化不良の所もありましたが、各種コンテストに応募し、プレゼンテーション能力も付けることができた。

今後の課題等

②地域の課題

・地域は少子高齢化となり異世代間交流が希薄であるため、その交流をより深く、継続で必要です。

・外国人研修生や国際結婚などで在留・在住外国人が増加しています。外国人同士だけの交流、引きこもり、自閉などの事例が見られる。米作りを通じて、異文化交流が深まればと考えています。

・「こうのとりの育む米」は減農薬の米作りです。アイガモ農法は完全無農薬です。ブランド力や経費の面で「こうのとりの育む米」に圧倒されています。アイガモ方法をもっと普及できることを考えています。

〈令和3年度以降の事業計画〉

・田植え、アイガモ放鳥、生物調査、稲刈り、反省会(収穫祭)のヘビールーティンを軸として、各種発表会・コンテストなどに応募する。

・地域の参加者の拡充を目指します。



2020年5月23日 田植え



2020年6月7日 アイガモ放鳥



2020年7月27日 生物調査



2020年9月13日 稲刈り